



日本共産党・そねはじめレポート とうきょう民報おりにこみ版

2011年 10月19日発行 第 17 号

そねはじめ事務所
114-0032
北区中十条2-11-6
Tel:3907-1135
Fax:3906-3225

田村議員と水害被害者、国土省に原因と責任究明を要請 堤防の“水はけ”が機能していなかった 可能性を追及

●「自然災害なので」の言い訳ができなくなって・・・

10月18日、8月の浮間水害の被害者と住民6人と、ながいともこ区議、そねはじめ前都議は、国会の議員会館を訪ね、田村智子参院議員と共に国土交通省からスーパー堤防の水害当時の状況について説明を受け、水害の原因と責任についてきちんと究明し、被害への補償を検討するよう要請書を渡しました。

最初は「自然災害なので」と国の責任がないのを前提にしようとしていた水管理・国土保全局治水課の丸山課長補佐も、住民の「当日は、国が機能していると説明した排水管は泥でふさがっていた」との追及に、言い訳できなくなりました。

●堤防の上に降った雨をすべて住宅側に流すのは理不尽！

さらに田村議員も「私も現場をみたが、堤防上に降った雨を全部住宅側に流す構造だ。水害をなくすためのスーパー堤防で水害が増えてどうするのか。豪雨を川へ流す対策を」と追及。住民のEさんからも「以前は大雨の後1週間も使えなかった川側のゴルフ場が今回は翌日から営業していたのは納得できない」と訴え、国も「出来ること出来ないこともある」としながら改善の検討を約束しました。

●50ミリ豪雨以下でも溢れそうだった

被害地域のTさんからは「9月21日の台風の時、50ミリ以下の雨量だと思うが排水溝は溢れか



かっていた」との話もあり、50ミリ対応にも疑問が出されました。国も調査を行って、可能な対策について必ず説明会を開くと約束しました。(写真は国側に質問する向こう側の左から田村議員、そね前都議、ながい区議と住民)

◆共産党北地区の東北被災地救援ボランティア・・・10月24/25日に石巻へ

今月の東北支援ボランティアは、24日(月)と25日(火)に現地へ出かけます。

お米や冬物衣類、暖房器具など搬送し、無料配布に取り組みます。どうぞご協力をお願いします。

◆区議団主催の内部被爆問題学習会 *日時:11月23日13時半赤羽会館 *講師:矢ヶ崎克馬氏(琉球大名誉教授)

そね前都議と練馬区議団が北社保病院を訪問

光が丘病院を引き継ぐ地域医療振興協会を調査



10月17日、共産党の練馬区議団と共に、そねはじめ前都議は北社保病院を訪ね、運営を担う地域医療振興協会と病院側から、練馬で日大の後を引き継いで光が丘病院の経営を担う見通しについて率直な見解を聞きました。

協会の企画部の田波氏は、「日大とのいきさつは複雑なので、練馬区を介して職員の引き継ぎなどを調整したい。光が丘で働き続ける希望者は引き受けるつもり」と説明しました。

また北社保病院は、昨年5億円以上の黒字を計上し、社保病院の存続法も成立したので、来年にも北西側の中庭に新たに増築を行い、不足がちな入院ベッドと周産期のNICUなど63床を増やして小児医療と救急医療の充実に

取り組む計画も表明しました。(写真は病院を見学する右からそね前都議、島田・とや練馬区議、松村前都議)

そねはじめ交友録<その十一> “ぼくらの太平洋戦争”は、 保守政治の下で、よくここまで 公立学校で歴史を学べたと絶賛

北大を卒業してから、私の六年下の弟と同学年の文京二中生たちが、本田先生の授業をきっかけに大変な歴史調査に取り組み、一冊の本になったという話を聞き、今や伝説とも言うべき「ぼくらの太平洋戦争」を読みました。

私が中学生の頃の「アジアの国々の教科書を読んでその国の中学生に手紙を書きなさい」という授業からさらに進んで、「太平洋戦争で日本軍はアジアの人々をどれだけ犠牲にしたのかを知りたい」ということになり、自民党政府がサンフランシスコ条約で戦争の賠償責任はないのを口実にアジアの戦争被害を全く調べないなかで、中学生達がグループで各国大使館を訪問し、戦争犠牲者の統計を集約するという大胆な研究に乗り出したのです。

一方、調査活動を知った父母からは賛否両論の激しい論争が起きました。今ならこれで調査は中止となるどころですが、そのとき本田先生は、生徒と父母を説得して、生徒の感想と共に父母の賛成反対の意見まで、ほとんどを実名で編集することに成功したのがこの本でした。

このときの「アジアの国々の戦争犠牲者は約二千万人」という調査結果が、今も歴史の資料として使われていることを考えると、これほどの歴史教育を良くも自民党政権の下でやってのけたと感心させられます。

しかし本田先生が巻末に書いているように、ここまで戦争の実態を自ら調べた子ども達でさえ、高校、大学、社会へと育つ中で、戦争や核兵器さえ容認する思想に変わっていくのもまた、日本社会の現実でした。

私も大学で、これらの本に出会わなかったら、おそらく同じように変節していたでしょう。

北区で民青の教育担当として活動する中で、本田先生を二度ほど講師として学習会に招いたことがあります。その後急逝され、再会の機を逃したのが本当に残念です。

北大で発見し購入した初版の「ぼくらの太平洋戦争」と「歴史教育の理論と実践」、最近後継者が著した「新ぼくらの太平洋戦争」

